

環境省石西礁湖自然再生事業について

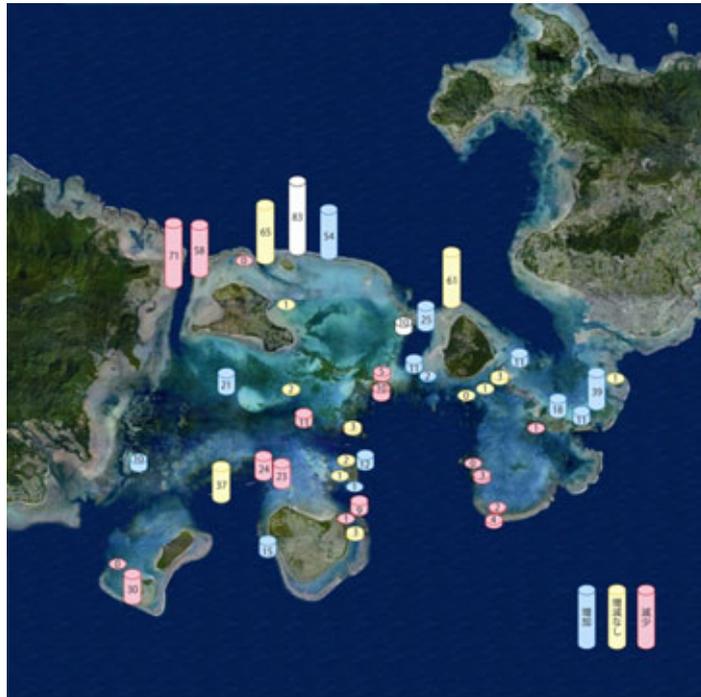
1 モニタリング調査

(1) サンゴ群集や攪乱要因のモニタリング

平成 21 年度は、サンゴ群集や攪乱要因についての各種モニタリング調査を実施しました。

また、西表島の網取湾の約 50m の海底に生息するアミトリセンベイサンゴの生息実態調査や、サンゴの成長を阻害しているのではないかとされている死サンゴ礁の影響低減のための試験区の設置等を行いました。

22 年度も継続して各種モニタリング調査を実施します。



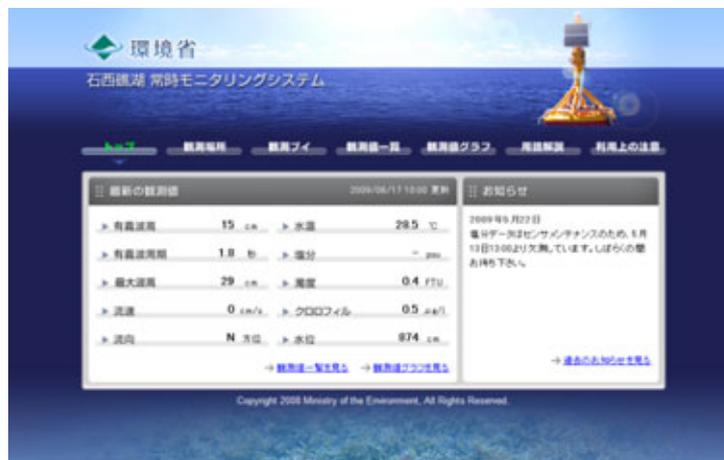
平成 21 年度調査におけるサンゴ被度と 20 年度からの増減



アミトリセンベイサンゴの生息状況

(2) 常時モニタリングシステムによる海況観測

石西礁湖の海況を定期的かつ即時的に把握するため、小浜島東側海域に常時観測機器を搭載したブイを設置し、水温、塩分、クロロフィル、濁度、流向・流速、波高等を観測しています。得られたデータはウェブサイトで公開しています。



常時モニタリングシステムウェブサイト(<http://www.e-monitoring.jp/>)

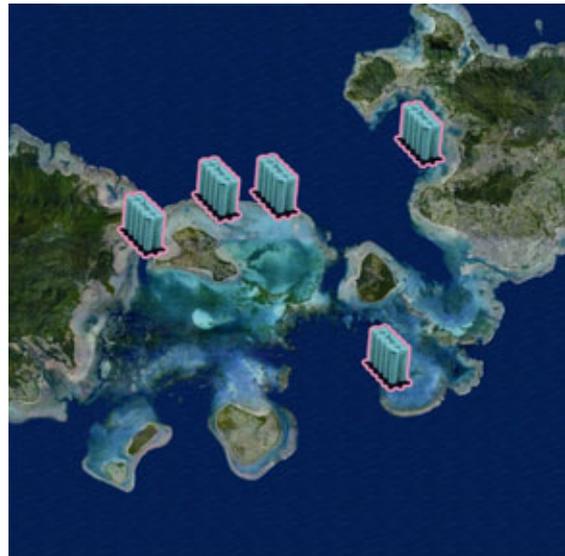
2 サンゴ群集修復事業

平成 21 年度は、石西礁湖周辺の 7 海域にサンゴ種苗採取用の着床具を 44,748 個設置するとともに、石西礁湖内の 4 海域に 5,145 個の種苗を移植しました。

平成 22 年度は、4 月に石西礁湖周辺の 5 海域にサンゴ種苗採取用の着床具を 42,984 個設置するとともに、着床具 1,764 個を用いて陸上での採苗を試験的に実施中です。今後、昨年着床したサンゴ種苗の移植を実施予定です。



平成 21 年度の採苗地点と移植地点



平成 22 年度の採苗地点

また、今年 5 月には、平成 18 年 2 月に移植したサンゴの産卵が確認されました。



移植したサンゴの産卵

3 オニヒトデ駆除事業

「オニヒトデ分布調査」、「モニタリング調査」等の結果をもとに、地域関係者と調整した上で、限定海域（ユイサーグチ周辺の5地点、黒島東の1地点）を繰り返し駆除する方法で実施しました。

黒島東では、繰り返し駆除を行う「駆除区」と、駆除を行わない「対象区」を駆除区と同様の条件下に設定し、駆除のサンゴ被度保全効果を検討しました。

その結果、サンゴ被度は、駆除区では駆除開始前40%から駆除終了後38.5%とわずかに減少し、対象区では37.5%から26.7%と大きく減少しました。

また、ユイサーグチ周辺の5地点では、駆除開始前の5地点の平均サンゴ被度43%が駆除終了後も43%と変化がありませんでした。



平成 21 年度のオニヒトデ駆除海域

4 意識の向上・広報啓発

各種自然観察会やイベント「八重山の海と大地の恵みのつどい」等の開催を通じて、意識の向上や広報啓発に努めました。



八重山の海と大地の恵みのつどい

5 その他自然再生事業の実施に必要な事項

ウェブサイトを通じた情報発信

石西礁湖ポータルウェブサイトや国際サンゴ礁研究・モニタリングセンターのウェブサイトにおいて、石西礁湖に関する情報や環境省の自然再生事業に関する情報を発信しました。



石西礁湖ポータルウェブサイト (<http://www.sekiseisyouko.com/szn/>)